

紀朝臣鹿人の、跡見の茂岡の松の樹の歌一首

九九〇番

茂岡に 神さび立ちて 栄えたる 千代松の木
の 知らなく

同じ鹿人の、泊瀬川の辺に至りて作る歌一首

九九一番

岩走り 激ち流るる 泊瀬川 絶ゆることなく
またも来て見む

大伴坂上郎女の、元興寺の里を詠ふ歌

一首

九九二番

故郷の 明日香はあれど あをによし 奈良の明
日香を 見らくし良しも